

寝たきりの皆さんなどの訪問看護指導事業

思いやりで支えたい

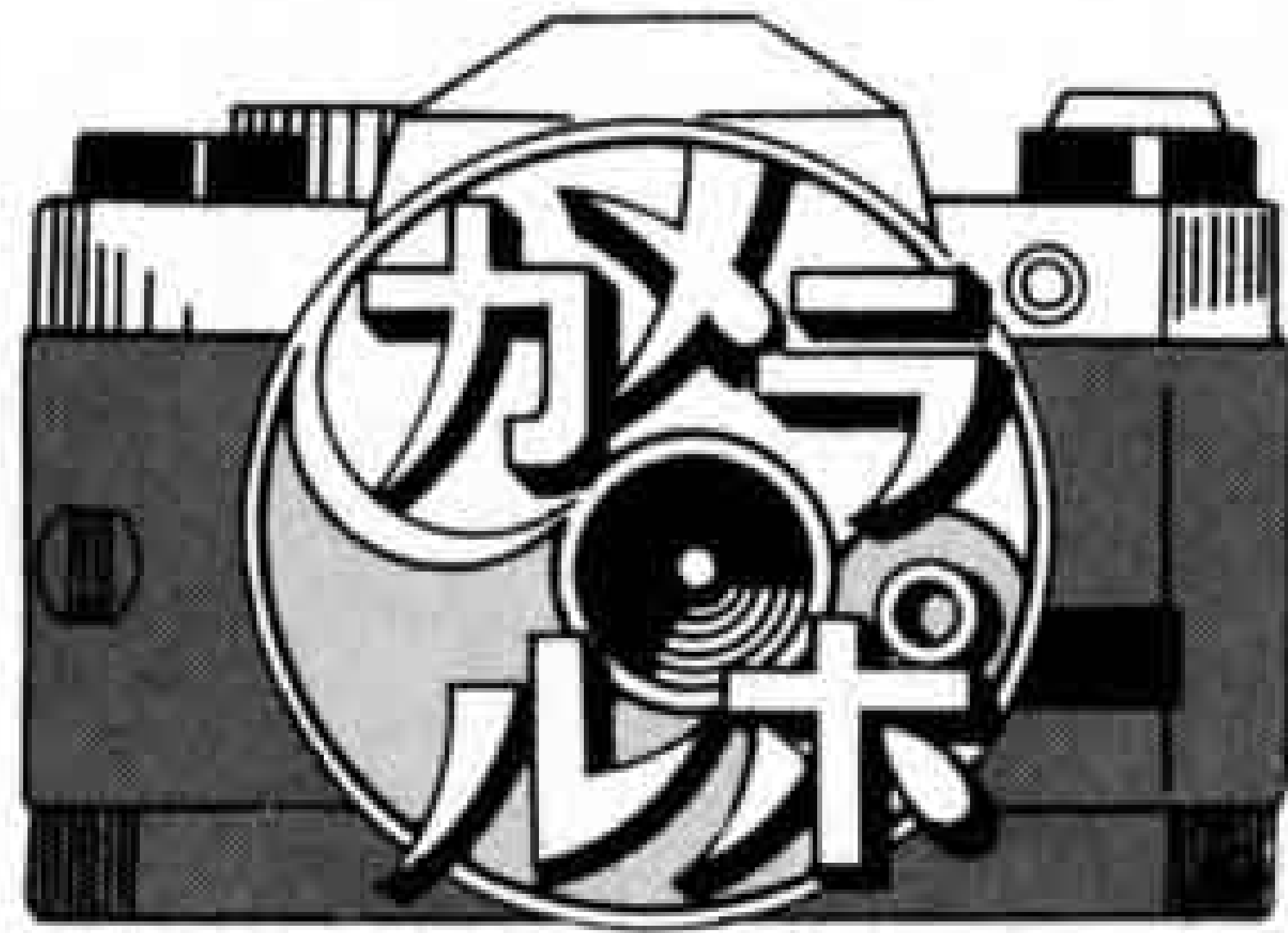
「人間として尊とばれる生き方をしたい」これは、たとえ体が不自由になっても、当たり前前の願いです。

しかし、実際寝たきりや痴呆になってしまうと、尊厳のある生き方は生易しいものでなく、介護者の苦勞は、はかり知れないものがあります。

市の保健婦や看護婦はこうした家庭を訪問し、医師の指示による寝だこの処置や予防等の看護、機能回復訓練の方法を指導しています。また、医療機関と連携したサービスや福祉情報の提供なども行うなど、これから高齢化社会に向かって大切な役割を担っています。今回は、丘地区のKさん宅の訪問に同行しました。



△着がえは2人がかりでも大変



△「今週どうだった？」Kさん宅には1週間に1回の訪問



△健康チェックは大切な仕事



△「待ってましたよ」



△「じゃあ またくるね」「ありがと…」



△頭を洗っていい気持ち



△介護者の話を聞くのも大切な役目



△福祉や医療機関との調整や看護法などをみんなで話し合う

問い合わせは
 保健婦人センター ☎64-8992